

海洋プラスチックごみ問題

14 海の豊かさを
守ろう



▼ 目次【VOL.142】

- 2-3 海洋プラスチック問題
- 4-5 第21期NGOカレッジ報告
- 6 九州地域NGO活動助成金
- 7 正会員団体活動レポート
- 8 NGO出張サービス 他

～世界の問題に目を向ける～

SDGsの目標14は「海の豊かさを守ろう」です。きれいな海を守り、持続可能な海洋資源の実現に向けて、海洋プラスチック問題の解決が現在世界的なトレンドになっています。

海のプラスチックごみを減らし きれいな海と生き物を守る！

ペットボトルなどの容器包装から家庭用品やおもちゃまで、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。便利な一方で、ポイ捨てなど不適切に処分されたプラスチックごみが大量に海に流れ出て、海の環境を汚し、海の生き物にも悪影響を及ぼしています。このままだと、**2050年には海のプラスチックごみは魚の量を上回ると予測されています***¹。海のプラスチックごみを減らすために、私たち一人ひとりのプラスチックとの賢い付き合い方が問われています。

* 1 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201905/1.html>

世界中で毎年800万トンものプラスチックごみが海に流出

海洋プラスチックごみは、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下、景観への悪影響、船舶航行の障害、漁業や観光への影響など、様々な問題を引き起こしています*1。海洋プラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がっており、北極や南極においても海洋プラスチックが観測されたとの報告、また毎年約800万トン（東京スカイツリー約220基の重さに相当）のプラスチックごみが海に流出しているという試算があります。このままだと2050年には海のプラスチックごみの重量が魚の重量を超えるという試算もあります*2。さらに、海洋プラスチックごみの主要排出源は東アジア地域及び東南アジア地域であるという推計もあることから、開発途上国を含む世界全体の課題として対処する必要があります*3。

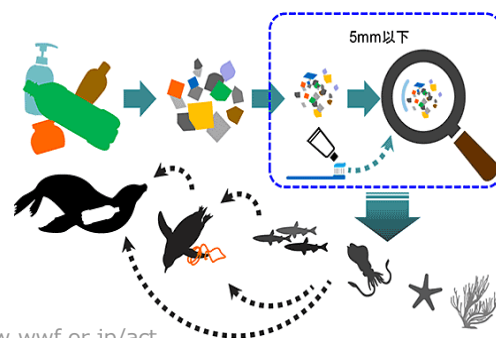


▲漂着したプラスチックごみで汚れた海岸

一度海へ流れると回収不可能なマイクロプラスチック

プラスチックごみは時間が経つにつれて劣化し次第に小さくなりますが、5ミリ以下のものをマイクロプラスチックと言います*4。マイクロプラスチックは、洗顔料や歯磨き粉にスクラブ剤として広く使われてきたプラスチック粒子（マイクロビーズ）や、プラスチックの原料として使用されるペレット（レジンペレット）の流出、合成ゴム

でできたタイヤの摩耗やフリースなどの合成繊維の衣料の洗濯等によっても発生しています*5。そして、生活排水や、マイクロビーズの製造あるいはこれを使用した排水が正しく処理されず川などに流れてしまうと最終的には海に流れ込んでしまいます*6。マイクロプラスチックは、漂流の過程で汚染物質が表面に吸着し、化学汚染物質の海洋生態系へ取り込まれる原因になる可能性があるほか、誤食により海洋生物の体内に取り込まれることによって害を受け、炎症反応、摂食障害などにつながる場合があることが指摘されています*7。



<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

▲微細なマイクロプラスチックは、食物連鎖を通じて多くの生物に取り込まれる

アジア諸国で海洋プラスチックゴミが大量に出る原因は？

2010年に推計された海洋プラスチックごみの発生量が多い国を見てみると、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、スリランカなどアジア諸国が多く占められています*8。アジア諸国ではプラスチックの製造を原料からではなく廃プラスチックの再利用という形で行っており、これは原料を輸入するよりも安価で手に入る廃プラスチックから造るほうが安くつくからです*9。プラスチックは大量生産が可能であり、軽量で丈夫なことから様々なシーンで利用され、アジア諸国では非常に需要の高い素材です。そのため、大量の廃プラスチックが輸入され、再利用すらできなくな

*1 <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/html/hj19010301.html>

*2 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

*3 https://gooddo.jp/magazine/oceans/marine_pollution/plastic_garbage/4442/

*4 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

*5 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

*6 <https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/43293>

*7 <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/html/hj19010301.html>

*8 <https://www.env.go.jp/council/03recycle/> 【資料3】海洋プラスチック問題について.pdf

*9 https://gooddo.jp/magazine/oceans/marine_pollution/plastic_garbage/4442/

ったものは廃棄されてきました*10。また、アジア諸国には長く大きな河川がいくつも存在します。長江や黄河、インダス川など多くの地域から支流が繋がり海へと流れ行く大きな河川です。これらの川に廃棄されたプラスチックは河川の流れに乗り、海へと流出してしまいます*11。

バーゼル条約の改正ポイントは「プラスチックごみ」の規制

プラスチックごみに関して知っておきたい国際条約に「バーゼル条約」があります。2019年5月10日、バーゼル条約の改正案が世界187ヶ国の採択の上2021年1月1日から施行され、新たに「汚れた(有害物質を含んだり、リサイクルができない)プラスチックごみ」を輸出する際に相手国の同意が必要となりました*12。条約改正以前よりプラスチックごみの越境移動を問題視する動きもあり、2017年には中国が世界に先駆けてプラスチックごみの輸入を禁止しています*13。実は、日本は年間150万トンものプラスチックごみを『資源』という位置づけで中国やアジア諸国に輸出しています*14。リサイクル処理には手間がかかり、その人件費を日本では捻出できないことから人件費の安い海外に輸出しています。このような海外輸出については、プラスチックごみの処理を処理体制が整っていないアジアの途上国に実質的に押し付けることになり、アジアからの海洋プラスチックごみ流出を加速させ、更には現地の深刻な環境汚染と人々の健康被害を起こすことにつながると懸念されています*15。先進国で『リサイクル』と称されているプラスチックごみが、リサイクルの理想に現実が追いつかず途上国にそのしわ寄せが生じていることを示しています*16。(小原)



多文化共生コラム ③

第3回目の多文化共生コラムのテーマは、2019年4月に新設された在留資格「特定技能」についてです。今回は、FUNNで長期ボランティアとして活動している岡本遥香さんに執筆いただきました。

「特定技能」とは、少子高齢化により年々進行している日本の人材不足を補うため、一定の専門性や技術を有する、即戦力となる人材の確保を目的に2018年に創設された在留資格です。在留資格とは、「外国人が日本で行うことができる活動等を類型化したもので、法務省（出入国在留管理庁）が外国人に対する上陸審査・許可の際に付与する資格」です。具体的な制度としては、人材の確保が難しい14の産業分野（サービス業・製造業・生産業等）での従事が可能で、受け入れ側による一連のサポートが義務付けられており、受入れに際して技能や日本語能力を試験によって確認するなどの特徴があります。この「特定技能」と似たものに外国人技能実習制度がありますが、この制度は本来、来日した技能実習生に日本の技術を提供し、その技術を母国に広めてもらうという国際貢献を目的とするものであるのに対し、一部では実習生を安価な労働力として扱っているという課題がありました。特定技能の導入により、このような現状が解消に近づくことと期待されます。技能実習との大きな違いとして転職が一定の条件下で可能であることや、より手厚い支援が受けられるという点がありますが、いずれにしても、彼らがより生活しやすく働きやすい環境をつくるため、さらに制度の整備をしていくことが重要です。(岡本)

*10 https://gooddo.jp/magazine/oceans/marine_pollution/plastic_garbage/4442/

*11 https://gooddo.jp/magazine/oceans/marine_pollution/plastic_garbage/4442/

*12 <https://bit.ly/3BdCkQ8>

*13 <https://bit.ly/34u1YnC>

*14 <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

*15 https://www.huffingtonpost.jp/entry/plastic-trash_jp_5cedf983e4b0ae671058d843

*16 <https://www.greenpeace.org/japan/explore/plastic>

外務省「在留資格・特定技能」

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001335263.pdf>

出入国在留管理庁「新たな外国人材の受け入れ及び共生社会実現に向けた取組」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/fna/ssw/jp/overview/>



第21期NGOカレッジ：#平和の作り方 ～NGOの目線から～そしてわたし達は？

以下の内容で
NGOカレッジを
開催しました！

■ 今年のテーマは『平和の作り方』

NGO福岡ネットワークが主催する「NGOカレッジ」。今年で21回目を迎えた、国際協力やNGOの取り組みを知る連続講座です。今年のテーマは「平和」、図らずもウクライナ侵攻が始まった時期と重なり貴重な機会となりました。

■ 各回の概要

1 平和構築と開発援助に関わる

～アフガニスタン事例として 2/19

- 講師：林裕氏（福岡大学商学部貿易学科准教授）
 - 話題提供：浦田菖平氏（元ペシャワール会職員）
- 林氏から、頻繁な政権交代を経験してきたアフガニスタンの歴史、地方農村部の人々の様子、「注目」されると集中し、「危険」とされると去る援助、たくましい農村の人々の姿、そして平和構築・開発援助に関わるキャリアにつながるため今できることを伺いました。「今浮かんだ疑問、それを村の人々に聞こう」とも。浦田氏からは学生時代取り組んだフィリピンでの活動、ペシャワール会のアフガニスタンでの取り組みを伺いました。干ばつで食糧難の今こそ支援が必要では、という声も出ました。

2 多面的な視点で平和を考える

～NGOの活動現場の経験から 2/26

- 講師：今井高樹氏（日本国際ボランティアセンター(JVC) 代表理事）
 - 話題提供者：柴田京子氏（地球市民の会・ミャンマー事業プロジェクトマネージャー）
- 戦争は常に「敵」を必要とします。アフガニスタンではタリバンが悪者にされ、イスラエルはアラ

ブ人を「テロリスト」と呼び、北朝鮮は「脅威」。ウクライナ危機もロシア軍の配備は報道されてもNATO側の配備はされません。各地の人々の様子はどうか、アフガニスタン農村では政権交代をどう受け止めているか、分断されるガザ地区の様子とJVCの実施事業、実は165か国と外交を持つ北朝鮮と普通の人々の暮らし、学生交流での平和を望む共感など、日頃聞けない様々な話を伺いました。メディアの伝え方に偏りがいないか等、平和をつくるために、多面的な視点から世界を見ることの大切さが話題になりました。地球市民の会・柴田氏からは、会がミャンマーで取り組まれている様々な活動や状況について、お話しいただきました。

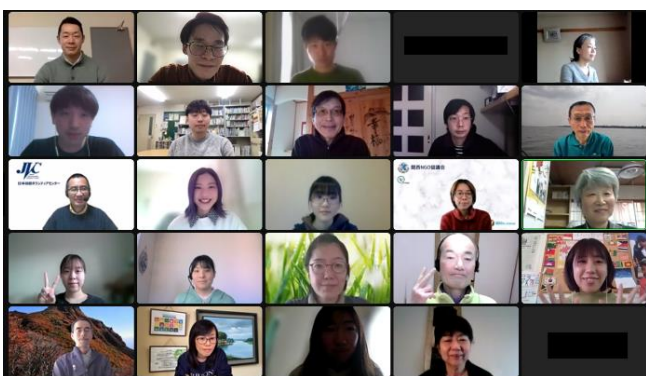
3 平和をつくるためのアドボカシーって？

～そして私たちにできることは？ 3/5

- 講師：木口由香氏（NGOメコン・ウォッチ事務局長/理事）
 - 話題提供者①：楠原圭子氏（アジア開発銀行福岡フォーラム(FNA)）
 - 話題提供者②：塩塚洋平氏（フレンズ国際ワークキャンプ(FIWC)九州）
- 2月に発生した国軍のクーデター以降、民主化を求める市民に対し弾圧が続くミャンマー。実は日本の経済支援が一部国軍に流れていることを、資料をもとに示し、私達の税金も関係していること、その流れを止めるために調査や提言・発信をされていることを伺いました。楠原氏からは専門的活動をする団体と一般市民をつなぐ活動について伺いました。塩塚氏からは「私達にできること」として学生団体として海外各地で、また国内で開催している活動を伺いました。その後参加者で、自分たちにできることを話し合いました。

【NGOカレッジ総括】

今年度のNGOカレッジは、「平和のつくり方」をテーマに、長年に渡りNGOの現場で活躍されてきた講師の方々にお話していただきました。また、福岡市の後援と、西日本国際財団様による助成を受け開催することができました。対面とオンライン両方による開催を予定しておりましたが、コロナウイルス感染拡大に伴い原則オンラインのみの開催となりました。今年度は学生ボランティア10名の協力を得ることができ、グループワークにおけるファシリテーターと書記を担当してもらいました。回を重ねるごとにそのスキルが上達していく様子が見て取れ、頼もしさを感じました。引き続きボランティアさんとも良好な関係を築き、今後のイベント等でも活躍して欲しいと思います。3回に渡り様々な角度から平和について学んだNGOカレッジ、参加者からは「どんなことでもまずは知ることが何より大切だと感じた」「平和について考える素晴らしいイベントであった」「自分が行動を起こすきっかけになった」など貴重なご感想をいただきました。改めて講師の皆様、学生ボランティアの皆様、ご協力いただき誠にありがとうございました。(小原)



▲第2回目に多面的な視点から平和を考える重要性を学び、参加者でディスカッションを行いました

参加者の声 ぱりおば様

平和のために自分に何ができるかは、これからの行動にかかっているんだけど、受講して学んだことは、常にいくつかの心得を忘れずに関わって

いくことが大切だということでした。その心得とは、「現実から目を逸らさない」「真実を見極める」「関心を持つ」「お互いにリスペクトし議論を進める努力をする」「行動を継続する」「諦めない」そして、活動している方々が仰っていた、「現地の人達から学ばせてもらっている。笑顔が見たいからまた行きたい」というお気持ちにとっても感銘を受けました。やっと行動を起こすキッカケができました。ありがとうございました。

FUNNインターン 奥羽絵理奈さん

今回初めてイベントに参加して新たに知ることが多く理解を深めることができました。講話を聞くだけではなく、事前予習やそのあとの復習、また普段から時事問題について情報を得るようにすると、より理解が深まると思いました。分からない内容があると書記ではうまくまとめたり発表の時に伝えたりするのが難しく、ファシリテーターだと発言に対するコメントを言ったり、そこから話題を広げたりすることが難しく感じました。しかしこのような経験をしたことにより、知ることに対する意欲が高まりました。また他の方との感想を共有するのが楽しかったため、今後もこのようなイベントに参加し、自分の考えを深められるようにしていきたいです。



▲第3回目に平和のためにわたし達ができることについて一人一人考えたキーワードを掲げました



九州地域NGO活動助成金

日緬の若者が共に学び考える「持続可能な食糧生産アクションプラン」

認定NPO法人 地球市民の会

2021年11月から12月の4回にわたり、日本とミャンマーの若者世代をオンラインでつなぎ世界の食糧生産や農業の課題について学び、持続可能な食糧生産のためのアクションプランを策定するワークショップを行いました。日本からは7名、ミャンマーからは16名が参加しました。日本参加者は、普段知ることのない生産地であるミャンマーの農村に思いを寄せる良い機会になったとともに、足元の自国の問題に目を向け、自分にできることを考える機会となりました。ミャンマー参加者は農業に従事している「生産者」がほとんどで、自分たちが抱える切実な問題について発表してくれました。互いに意見交換する中で「農地が余っている日本と農地が欲しいミャンマーという逆の立場にあるが、二国間で協力していくことでより良い未来があるのでは」という前向きな意見も出ていました。コロナ禍ではありますが、今後も各国の人をオンラインで結び、SDGs達成に向け国を超えた対話の機会をつくっていきたいと思います。助成いただき本当にありがとうございます。

耕作放棄地の増加
ရှင်ပင်မြေ ဖျက်ထားခြင်း

若者が農地を利用できる仕組みを作る
「つなぐサークルのWA！」

လူငယ်တွေက ရွှံ့ပစ်မြေတွေအသုံးပြုနိုင်အောင် စနစ်သစ်ဖန်တီးခြင်း



2030

地域の人が作ってほしい耕作放棄地を若者たちが全部利用している！

ရွှံ့ပစ်ထားတဲ့ရိုက်ပျိုးမြေအကုန်လုံးကို လူငယ်တွေက တခြားရည်ရွယ်ချက်အတွက် အသုံးပြုကြမယ်။

日本側▲とミャンマー側▶のアクションプラン発表の様子



FUNN加盟団体懇親会

1月29日（土）に、オンラインにてFUNN加盟団体交流会が行われ、FUNN含め6団体にご参加いただきました。私もFUNNのインターン生として、この会に参加しました。中学や高校の授業では、NGOに焦点をあて詳しく掘り下げることはなかったため、私はNGOという名前と少しの基本情報についてしか知りませんでした。そのため、今回の交流会は私にとってNGOについての理解を深めるための出発点となりました。インターン先のFUNNは市民とNGOを結ぶ架け橋的な役割を担う機関であるため、実際現地に赴いて活動することはありません。そのため、実際に現地に赴いて活動を行っている団体から貴重なお話を聞くことは新鮮であり、貴重な経験になりました。“世界中の困っている人達を救いたい”なんて口にするのは誰にでもできますが、それを実際に実行するためには、英語をはじめとした言語習得や現地の人々が直面している問題とその解決策の考案、勇気など多くの要素を必要とします。これらの要素を満たし行動に移しているという、その行動力に私は感銘を受けました。自分が行動を起こすことで、世界中の誰かが救われるのなら、私は皆さんのように勇気をもって国際協力への1歩を踏み出したいと思いました。そのために、日頃から外国語の学習やFUNNへのインターンを通して、NGO関連の具体的な基礎知識や世界の情勢に関する知識を習得するなど、世界へ羽ばたくための準備に勤しみたいです。(FUNNインターン 中島)





NPO法人 エスペランサ 馬場 菊代さま



◀ピュアハートの指導者國友さん(右から2番目)を囲んで

エスペランサは、世界最貧国の1つ西アフリカのギニア・ビサウ共和国で27年間活動してきました。2002年に小学校、2009年に中学校を建てその運営をしています。日本国内では、ギニア・ビサウでの活動を支えるためのチャリティコンサートを重ねてきました。

この度のチャリティコンサートは、コロナ禍の中延期に次ぐ延期、2021年10月24日ようやく開催することができました。(10月24日がダメなら、不本意だけれど中止、と一悶着を決めていました)筑紫野市に拠点を置くピュアハート*さんの協力を得て行ったのです。

*知的障がいのある6人の音楽バンド

17回目の今回は、いろいろなことに恵まれました。会場に制限ギリギリの100名のお客様が来て下さったこと、Zoomを織り交ぜた活動報告、すばらしい秋晴れ、ピュアハートさんの心温まる演奏、会場となった遺跡公園（朝倉市平塚）のスタッフの方々の惜しみない協力etc。そして、実行委員会スタッフが1つになった、感動のチャリティコンサートでした。



▲ピュアハートの演奏

▶ 初めての野外でのコンサート



FUNN周辺 “おすすめ” イベント情報

○ リモート倶楽部FUNN4月

ドイツ出身のメラニー・ヴェーバーさんがスピーカー。日本へ留学した経緯や、日本で働くことについて、メラニーさんの経験と考えを共有していただきます。

- ◎ 日時：2022年4月8日(金) 19時～20時30
- ◎ 場所：オンライン (Zoom) ◎ 料金：要確認
- ◎ 申し込み方法：Peatix
- ◎ 主催：NGO福岡ネットワーク



○ アンクルン演奏

トウマンハティふくおかさんが、3月27日のJICA海外協力隊まつりでアンクルンの演奏をします。技能実習生もメンバーに加わり、3曲演奏。是非見に来てください！

- ◎ 日時：2022年3月27日(日) 13時～13時20
- ◎ 場所：貴賓館(旧福岡県公会堂)玄関前の野外特設ステージ ◎ 料金：無料
- ◎ 主催：福岡県青年海外協力協会 他

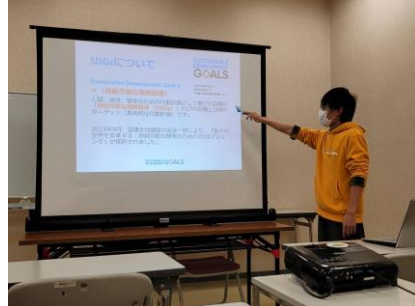


外務省NGO相談員とは、国際協力分野で経験と実績をもつ日本のNGO団体が外務省の委嘱により「NGO相談員」となり、NGOの国際協力活動・NGOの設立・組織の管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会にお答えする制度です。NGO福岡ネットワークは外務省から委託され、この事業を2000年から継続して取り組んできました。今後も皆様からの数多くの相談を受け付けています。



中学校で国際的な人権問題について講演を行いました！

12月10日に、佐賀県の川副中学校で、国際的な人権問題についての出張講演を行いました。差別、偏見、いじめなどの身近なテーマに加え、根本的な生きる権利を侵害されている人たちがいること、その一方で、このような人権侵害を無くすために活動している団体さんがいることなどを紹介させていただきました。生徒さんは真剣に授業に臨んでくださり、「自分が変われば世界を救えるのだと学んだ」といった感想をいただきました。(加藤)



佐賀県鳥栖市でSDGsの基礎講座を行いました

佐賀県鳥栖市のとす市民活動センターにてSDGsの基礎講座をスタッフ研修として開催しました。当日はFUNNスタッフが講師となり、SDGsの成り立ちや17の目標の解説、事業者や行政がどのようにSDGsを仕事に取り入れているかを解説しました。参加したスタッフさんからは「今まで言葉だけ知っていたので深く理解することができただけでなく、どのように生活の中で実践すればいいのかもわかりとても良かった」というお声を頂きました。(松崎)



編集後記

2月24日、ロシアはウクライナに対する軍事侵攻に踏み切りました。それにより多くの市民が犠牲となり、被害は現在でも拡大する一方です。今年度のNGOカレッジでは、まさに平和のあり方について学び、市民である私たちができることについて意見交換を行いました。戦争のない世界をめざして日々考えていきましょう(小原)



正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (特活) エスペランサ
- * NGO Earth for Children
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 国際協力NGO NESTEP
- * ネパール歯科医療協会(ADCN)
- * 芭蕉繊維研究会
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * モザンビークのいのちをつなぐ会